

特定非営利活動法人 カゴシマライフネット 設立趣旨書

■市場背景と設立趣旨

1947年(同22年)から1949年(同24年)にかけて生まれた第1次ベビーブーム世代は、現在54～56歳。300万人ともいわれるこの世代の大量定年退職により生じる問題が、いわゆる「2007年問題」として様々なメディアでの論点となっていることは周知のことと存じます。

カゴシマライフネットは、この「2007年問題」の鹿児島への波及事象として、

1. 人材輩出県である鹿児島へのUJIターン定住者の増加
 2. 急速な少子高齢化における労働力確保としてのUJIターン者、団塊の世代を中心とする熟練労働者の雇用
 3. UJIターン者保有の知的財産のデータベース化と、その活用
- を想定いたしました。

ここで懸念されるのが、地域情報と、UJIターン希望者の情報マッチングとその運用方策です。

そこでカゴシマライフネットは、定住に至るまでと、定住後に必要となる様々な情報を医、職、住の観点から集約し、WEBサイト上に公開することといたしました。

地域事業者の皆様とUJIターンを希望する方々との双方にとって利益となる受発注をコーディネートする事業を行い、そこで蓄積された情報をデータベースとして管理、分析して公開することにより、新たな地域計画の一助となることを希望しています。

これらは鹿児島の人口増加、労働力確保、事業ノウハウの継承による地域産業の発展といった緊急性、かつ重要性をもった事業分野であり、中長期的な視野にたった計画、実行組織の確立が、必要とされています。

その実現には官、学、民を横断的にコーディネーションする組織が不可欠との判断から、カゴシマライフネットは各界より設立にご賛同をいただき、上記問題に対する統合的なサポートを実現する主体として、ここにNPO法人としての設立を申請させていただくこととなりました。

■学際的取り組み

特に上記1.に関しては、町村合併が進行している現在、居住地に関する情報提供に際して、その基礎資料となる、人口変動データなどを反映した新たな地域計画の確立が求められており、「カゴシマライフネット」は、鹿児島大学工学部建築学科の地域計画研究室と共同で、その基礎研究に取り組んでいく所存です。

その成果を元に、より精度の高い、地域情報を、県内外の皆様にご提示できることになると考えています。

また、上記2.3.についても、ITを通じて鹿児島という街の魅力・情報を供給し、その実現をサポートしてまいります。流入世帯と、既存世帯との情報交流を促進し、移住、定住がスムーズに図れるよう、様々なバックアッププログラムを実施していきます。

セミナーを開催し、UJIターン者の方々、地域事業者の皆様と接することにより、都市部で経験したノウハウを共有化し、地域事業者や、これから創業したい市民の方々への情報提供が可能になると考えています。

そうして収集した情報を元に、カゴシマライフネット内に下記の部会を設け、有識者、学識経験者を招いての研究会を定期的に開催し、その成果をサイト上で公開することにより、地域事業者、市民の皆様の財産として活用していただきます。

1. 町村合併後の生活圏から策定する地域振興計画部会
2. 健康、福祉の街づくりを推進する公共交通網計画部会
3. 農・水産・製造・商業・観光全てを包含する鹿児島の特異性を生かした産業創造部会
4. UJIターン者保有の知的財産のデータベース化とその活用創造部会
5. UJIターン者と既住民間のコミュニティ創造プログラム促進部会

■申請にいたるまでの経緯

- 2004年 12月 ソーホーかごしまに、「かごしまに住もう！.ネット」として入居
- 2005年 1月 カゴシマライフネットのHPオープン
- 2005年 2～3月 定住促進に関する自治体施策調査
- 2005年 4月 任意団体カゴシマライフネット発足
- 2005年 9月 就労支援事業、居住支援事業準備会議開始
- 2005年 10月 NPO法人設立総会開催

■カゴシマライフネットの使命

カゴシマライフネットの使命は、鹿児島県の県勢発展を目標とする経済活動の活性化であり、それを実現する為の職業能力の開発又は雇用機会の拡充を支援する活動であるといえます。

「カゴシマライフネット」は、その開発、支援活動にあたって、無駄のない最適化された計画策定を行い、医、職、住の情報を包括した実施計画策定までを視野に入れ、その実現を目指していきます。

2005年12月1日

特定非営利活動法人 カゴシマライフネット
設立代表者 西田建一 印

〒892-0811 鹿児島市玉里団地3丁目37番20号 ダイヤハイツ玉里B棟303号